

柘植地域

まちづくりだより

第227号

発行

柘植地域まちづくり協議会事務局
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地

(柘植地区市民センター内)

〒五二九-1402
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三

発行日

二〇一九(平成三十一)年一月一日(火)

柘植地域俳句コーナー

ほろ酔いで

地下街出れば

春の月

中嶋國博

12区が運命共同体として
難しい時代を切り拓こう



会長 半田 三都生

新年あけましておめでとうございます。

柘植地域のみなさまにおかれましては、良いお年をお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃はまちづくり協議会の諸活動にご支援ご協力を頂き、深く感謝申し上げます。ともに、引き続き今年も宜しくお願い致します。

さて、柘植地域各区(12区)に共通する問題として、たとえば空家の増加、農業の担い手不足や山林の手入れ不足、あるいは獣害など環境問題があります。また人口減少・少子高齢化による区の活動の担い手確保や高齢者等の見守り体制づくり等、問題は増えることはあっても減ることは当面ありません。

空家につきましては、市の取り組みも功を奏し、当地域は市内で最も移住者の多い地域です。昨年のまち協主催「移住者交流会」等を通じ、私たち柘植地域の住民自身も地域の魅力を再発見しながら、いわゆる「関係者人口」を増やし、ともに地域を盛り上げていくよう、柘植の魅力にブラッシュアップを掛けていきたいものです。

山林の問題(獣害や水源を含む)につきましては、阿波地域・布引地域とともに合同研修会を繰り返し、一人ひとりが見識を広め市や県の行政施策を学ぶことで、分水嶺に位置する当地域の役割にも改めて気づくとともに、山林財産を維持していけるよう打開策を探っているところです。

一方、超高齢社会はまさに目の前です。福祉面での見守り体制につきましては喫緊の課題であり、山出区・中柘植区は組織が機能しており他4区でも組織は出来つつありますが、民生委員・社会福祉協議会とも連携しながら対

策を急がねばなりません。そうした点においては、旧柘植保育園園跡地については「ふれあいステーション都美恵」と「杜のカフェいこいこ」への使用許可が丸一年経過し、どちらも順調に運営されておりますことは喜ばしい限りです。

さて、柘植地域まちづくり協議会は来る2月で設立16年目に入ります。「まち協規約および組織のあり方」について、一昨年から見直しを鋭意図っているところですが、時代の変化が激しく、また自主財源が見いだせないこともあり、簡単には進んでいないのが現状です。

いずれにせよ、まち協は区長さんのご努力により、区民と市行政のつなぎ役も担っているわけですが、住民のみなさんは最近の市行政他の動きに、ついていけているでしょうか？

「公共施設最適化計画」「水道ビジョン」「包括交付金の減額計画」などについては、内容の良い悪いはさてお

き、十分に内容を理解するまもなく話が進んでいきがちです。

最近の多忙社会においては住民がじっくり学び、考え、話し合うための時間が確保しづらく、政治が他人事になってはいないでしょうか？

この課題を解消するには、情報を送る側(市)のていねいな情報発信とともに受け取る側である私たちも情報を得ようとする努力が欠かせません。

これから市にいていねいな説明を要望しつつ、私たち住民の側も、「広報伊賀市」「市議会だより」「行政チャネル」などで市政・議会などに目を向けていくことを大切にしたいものです。

柘植地域内の取り組みについては、『まちづくりだより』やホームページ、あるいは区長様を通じて、これからも情報をていねいに発信していきたいと存じます。

『まちづくり』のバックナンバーは、こちらから→



関連して、このたび3年ぶりに「まちづくりアンケート」を16歳以上の全住民対象に実施します。結果がまとまりましたらそれを区やまち協の今後の事業づくりの一つの根拠としていけると思います。

人口減少社会において、ボランティア精神だけでの地域運営にはおのずと限界があります。一人ひとりが自分の

持ち味を地域のために出し惜しまず、重要度・優先度をみんなで決めながら、実行していくことが大切であり、柘植地域の12区は運命共同体としての観点を持ち続けなければなりません。

今年10月には消費税が上がります。また団塊の世代が後期高齢者となりはじめる「2025年問題」を間近に控えたこれからの5、6年は、ますます厳しい時代になると予想されます。

世の中では東京オリンピックや大阪万博などの華々しいイベントに目が向きがちですが、そうした情報ばかりに踊らされることなく、近隣の出来事に目配り気配りのできる体制を大切にしていきたいものです。

ご家庭はもとより組・区そして柘植地域という身近な情報に関心を寄せ、地域の将来のために実行力のある取り組みを進めていただきますよう、切にお願い申し上げます。新年の挨拶に代えさせていただきます。

新年のあいさつ



伊賀市長 岡本 栄

新年あけましておめでとうございます。柘植地域の皆さんに

は、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また日頃から市政運営に格別のご理解ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の市政を振り返りますと明るい話題が様々ありました。中でも「伊賀市100年の計」であります新庁舎が完成、新年の幕明けとともに開庁(1月4日)を迎えることは、なんとも感慨深いものがあります。今後は、行政機能の中核として世代を超えて親しまれ受け継がれていく庁舎にするべく努めていくとともに、「誇れる伊賀市」「選ばれる伊賀市」を目指し、市民の皆さんとともに邁進していく所存です。



また、宝島社刊『田舎暮らしの本(2018年度版)』で、伊賀市は若者世代が住みたい田舎部門で東海エリア第5位にランクインしました。移住希望者に寄り添う丁寧な相談など様々な取り組みを重ねた成果として手ごたえを感じています。特に柘植地域は移住実績が8世帯と市内で最も多く、



住み心地の良さや昨年10月に開催しました「移住交流体験」では、リアルトークやまちあるきを通じて地域の魅力を発信するなど活発な推進活動が高評価に繋がっていると思います。

また、自らが担い手となり、より良い伊賀を創る意識と実行力を発掘・育成することを目的とした「伊賀市若者会議」が9月に活動を開始しましたが、その趣旨や手法をまちづくり活動に取り入れる為の「柘植の未来づくり塾」創設は先駆的で意義のあるものと考えます。そして、若者が地域の未来に関心を持ち、自らの行動力によって地域を盛り上げる、そうした活動が幅広く展開されることを大いに期待します。結びに、柘植地域まちづく協議会の益々の発展と、皆さんのご健勝、ご多幸を祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



伊賀市議会議員
山下 典子

あけましておめでとうございます。皆様には、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。



昨年も全国で多くの災害が発生しました。特に、大阪北部地震での小学校のブロック塀倒壊の件など通学路の安全が問われる事件もあり、改めて安心・安全を守る快適な環境を整備することの大切さを痛感させられました。

そうした中で、昨年10月7日には柘植地域合同防災訓練があり、1,197人の方が参加、自主防災の重要性を学ばれました。そして、現在、自主防災実行委員会が「防災マニュアル」の改定に尽力されていること等から、柘植地域の防災意識の高さを感じるとともに、災害に強いまちづくりをすすめていかなければならない事を改めて感じています。

市では企画振興部地域づくり推進課に平成28年から移住交流係をつくり、移住定住施策に積極的に取り組んでいきます。移住交流係を通じて移住されてきた方は、平成28年4月から平成30年11月30日まで642世帯119人です。その中で、柘植地域に移住された方は8世帯と市内で最も多い世帯数となっています。

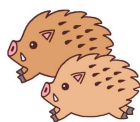
これは、柘植地域まちづくり協議会の日頃の活動が「おもてなし」に繋がっているからと言っても過言ではあり

ません。

さて、1月4日に四十九町で市役所新庁舎が開庁し、業務がスタートします。新しい庁舎に掲げてある「伊賀市」という文字は、わが郷土の松尾芭蕉翁の文字ですので、訪れた時には見ていただけたらと思います。



そして、5月1日には新しい元号となります。新しく展けて来る時代は、男性と女性、障がいのある人となない人など、社会に広がるあらゆる格差を食い止め、反転させると同時に、人々が結び合う信頼の糸、その無形の財産を生かし、今まで以上に相互に助け合っていく時代にしなければいけません。今年も猪突猛進するだけでなく、どのような課題であっても少しでも前進させること、謙虚であることを大切にして、皆さんと一緒に歩んでいこうと考えます。



結びに、今年も柘植地域の皆様の御健勝と御多幸をご祈念申し上げます、新年の御挨拶とさせていただきます。

地域の子どもとともに・・・

11月24日(土)、恒例の柘植小フエスが開かれました。体育館ステージで子どもたちが学習成果を発表する一方で、教育ボランティア



アや地域有志により、図工室では地域の作品展示が行われました。(写真はその準備風景)

また、11月16日(土)には、校内しぐれ忌が体育館で開かれ、芭蕉さん委員会の舞台発表や芭蕉さん音頭の斉唱などとともに、教育ボランティアによる俳句・絵手紙の表彰をしています。

ほかに、日頃から本の読み聞かせや図書ボランティア活動、朝のあいさつ・交通安全指導にも取り組んでいます。

12月19日は小学校のマラソン大会でしたが、それまでの練習時などには沿道での見守り活動もしています。



12月20日には保育園でクリスマス会が開催されました。ボランティアがサンタ役をし、その後園児たちと楽しい時間を過ごしたりもしました。



これからの行事としては、1月16日に保育園とお正月遊びをしたり、同日には小学校で恒例のカルト大会に参戦(?)したりする計画があります。

毎月1回教育ボランティアでは会議をしており、次回は1月15日(火)午後4時から柘植小学校でありますので、興味のある方はぜひ参加してください。何かを強制されることや専門的なことは特にありません。子どもたちのために自分の時間を使ってみようという軽い気持ちでけっこうですので、詳細は事務局までお問い合わせください。



写真は12月18日(火)午前、柘植地区市民センターで開催されたT1グランプリの様子です。地域や保護者にも開放されている行事です。ぜひ見学にお越しなってください。

年末年始の特別警戒実施中!

伊賀地区防犯協会伊賀支部 12月18日(火)夕方、伊賀地区防犯協会伊賀支部の取り組みとして、オクワ伊賀新堂店前で啓発活動を行いました。

柘植地域からは、更生保護女性の会伊賀支部長の川口順子さん、区長代表の森下仁さん、市民センター長の西田方計さんの3名が地域のメンバーとともに活動。柘植駐在所の成川さんもパトロール等で活躍されました。



しっかり防犯対策をして、安全・安心な新年を迎えましょう
不安や疑問を感じたら、迷わず相談を!



#9110
(警察総合相談窓口)

188
(消費者ホットライン)

伊賀警察署QRコード↓



QRコード→
水平社博物館



奈良へ、合同でフィールドワーク

人権啓発合同事業実行委員会
毎年12区合同で近隣・遠方2回のフ
ィールドワークを実施しています。

12月9日(日)に奈良県御所市の水
平社博物館と奈良市南人権文化センタ
ーへ合計42人で行きました。

水平社博物館では2班に分かれて、
ガイドさんの案内で館内と博物館周辺
のフィールドワークを行いました。

1871年の解放令の「5万日の日
延べ」の5万日目の2008年9月3
日のことを碑に刻んだ記念碑や全国水
平社創立90周年・大和同志会創立10
0周年記念モノコメント「いのち燦々

の燈」をはじめ、館内外で水平社に関
しての詳
しい説明
を受けま
した。



奈良市南人権文化センターでは阪田
はつみさんから、「ものづくりはひと
づくり」で地域の方をつ
なぎ、思いを広めていっ
た取り組みのお話を聞か
せていただきました。

実際に人権文化
センターに「もの
づくりに使った」
と寄せられた布
と、当日、柘植か
ら持参した木切れ
と枝を使って、鯉
のぼりの置物の作
り方を教えていた
だき、各自が1個
ずつ手作りで完成
させて持って帰っ
てきました。



鯉のぼりのポールに使った枝は、山
出区の集会所改築作業で切った桜の枝
からとったものを使わせていただきました
した。柘植と奈良の思いが融合したも
のづくりを通して、ひとつづくり、まち
づくりを考えました。

※当日の詳しい内容は、部
会広報紙『さあみんまで考
えよう』にも掲載されてい
ますのでご参照ください。

QRコード↓



一歩一歩、学ぶことから...

12月12日(水)午後、市民センター
でバイオマス事業補助金申請研修会を
開催しました。

この研修は、
夏に実施した問
伐材をマルチピ
アへ搬入・売却
した事実に基づ
く市からの補助
金制度活用につ
いての書類作成
方法を学んだも
のです。



またDVDに
よる研修も同時開催し、三重県内のあ
る地域を例に、山林の境界確認が難航
することによる弊害の実態を学んだ
り、山林の価値が低いことに目を付け
た不審な山林購入話(水源を買い占め
ようとするなど)が日本各地であるこ
となどを知り、山林が林業だけではな
く、人間生活のために重要であること
に気づかされました。

なお、1月24日(木)午前には、「森
林現地(下町区山)研修」ほかを市や
県、三重大学の協力の下で行います。
詳しくは事務局にお問い合わせくださ
い。



柘植駅は、明治23(1890)年2月19日に誕生しており、このたびで129年となります。

柘植駅を核とする公共交通のあり方検討委員会

JR西日本亀山鉄道部、滋賀県草津線複線化促進期成同盟会の協力を得、柘植駅跨線橋の一部に「柘植のホントかるた」パネルを部分的ですが設置いたします。

設置の記念セレモニーを平成31年2月19日(火)10時頃に実施する計画です。

QRコード
JR柘植駅



柘植駅窓口の
営業日・営業時間が変更

諸事情により、平成31年1月より当面の間、柘植駅窓口の営業時間が変更になるとの連絡がJR西日本からありました。

月曜～金曜
(祝日は営業)
7時～16時

※土日は
窓口が休業に
なります

住民のみなさま、アンケートに協力よろしく!

3年ぶりのまちづくり住民アンケート(16歳以上の方対象)を実施します。激変の時代を前に、これからの区やまち協のあり方や事業づくりの参考データともなりますので、お手数ですが1月下旬をメドにご協力をよろしくお願いいたします。(回収方法・時期等は各区長様の指示によってください。)



柘植地域の現状をデータで見ると...

新年に当たり柘植地域の将来を考える材料にしてみてください!

★下表の数値は、伊賀市ホームページで閲覧できます。

データは「外国人や区入りされていない方」等を含んだ総数です。(区民数とは違います)

柘植地域の基礎データ

H30年11月末現在

字名(区名)	世帯数	人口	男	女	高齢化率(1年の変化)	
東部	岡鼻	72	168	86	82	43.7%→42.1%
	小林	204	408	213	195	44.7%→45.9%
中部	柘植青葉台	144	361	174	187	20.2%→22.4%
北部	上町	104	287	139	143	39.2%→39.0%
	下町	139	344	159	185	43.1%→42.6%
南部	倉部	105	270	129	141	41.6%→43.3%
	小杉	91	282	131	151	39.9%→41.3%
西部	山出	66	170	80	90	45.4%→49.1%
	前川	221	475	229	246	35.1%→36.8%
柘植地域合計	上村	46	126	64	62	43.9%→44.9%
	野村	69	199	89	110	42.1%→41.6%
柘植地域合計	1,419	3,472	1,677	1,795	平均38.8%→39.7%	
昨年同期比→	15増	43減	37減	6減	0.9%増	



↑QRコードで伊賀市統計ページをご覧ください。

賀正



柘植地域まちづくり協議会

※高齢化率はH30年9月末現在 65歳以上人口 1,386人(9月末)

◆毎年各戸にお届けしている「新年門松絵札短冊」。若干残部がありますので、必要な方は事務局までお越しください。